竹林整備

11月19日(日)、第40回竹林整備活動が行われました。生徒15名、PTA16名、地域の皆様12名が参加しました。ALTのアーチー・ピーターズ(亜知)先生も日本の文化伝統とSDGsを学ぶために一緒に研修しました。

私たちのテーマである「自然に生かされていること」「アップサイクル」をつなげる活動になるように頑張りました。循環型社会の実現に向けて段ボールコンポストの普及・啓発にも取り組んでいます。

PTA研修旅行

12月10日(日)、8時に学校に集合してPTA研修旅行に行きました。

本場さぬきうどん作り体験では、麺棒で延ばした自作うどんを御土産に持ち帰りました。

四国水景をテーマにした四国最大級の次世代水族館ではイルカショーなどを楽しみました。

保健環境部の皆さんを中心に企画していただき、誠にありがとうございました。令和6年度も継続して実施できるように皆様、よろしくお願いいたします。

編集後記

コロナ明けになり、高校生らしい活動を間近で見る事ができ、保護者も大変貴重な経験ができました。コロナ禍を経験した事をこれからの生活のプラスになるよう頑張ってください。一年ありがとうございました。

戸田 潤二郎

あっという間の三年間でしたが、PTA活動を通して、子ども達の姿を間近で見られたこと、本当に幸せでした。ありがとうございました

曽我 史子

PTA役員をさせて頂き早五年も経ち、時の流れる事の早さと同時に子ども達の貴重な成長過程を近くで感じることができ、本当に有難く思います。先生方や役員の方の御協力のお陰でとても楽しく活動ができました。ありがとうございました。

曽我部 詠美子

一年間PTA活動を通して、子ども達との交流が出来た事に感謝しかありません。微力ですが、子ども達のより良い学校生活に今後とも協力させて頂ければと思います。ありがとうございました。

髙岡 明美

鬱陶しいコロナ規制が無くなり、子ども達が元気に活動できることが本当に素晴らしいと思えました。あまりPTA活動に参加できませんでしたが、貴重な経験をさせていただきました。一年間ありがとうございました。

月岡 央次

一年間ありがとうございました。卒業式が近くなると、太田裕美さんの「木綿のハンカチーフ」が思い出されます。生徒の皆さん、知らないかもしれませんが、一度聴いてみてください！

十亀 博行

発行所
編集　小松高等学校
責任　PTA文教部
総務厚生課

校章の由来
松に囲まれた小松高校を抽象化した松の絵に小松の「小」と「高」を配した。

今年度のPTA活動を振り返って

PTA会長　吉實　勇治

平素より保護者の皆様には、PTA活動にご理解とご協力を頂いており、PTA役員一同心より感謝申し上げます。また、教職員の方々には様々な活動にご協力頂き、御礼申し上げます。

これまでコロナに振り回され、殆どの行事等が短縮もしくは中止を余儀なくされてきましたが、今年度、待望のコロナ5類化により、少しずつ本来の学生生活を取り戻して来つつあります。ただ5類になったとは言え、コロナが無くなったわけでは無いので、まだまだ油断できない状況が続いている次第です。

今年度、PTAの活動目標を『re:想いを紡ぎ、養正が丘の絆を繋こう』としました。これはPTA諸先輩方の小松高校並びに小松高生への想いを紡ぎ、100年以上引き継がれてきたこの養正が丘の伝統を繋いで行こうという想いを再び創り上げて行こうと願う気持ちを込めています。ですが、一方でコロナ禍の影響で、新しい学校生活やPTA活動の在り方が問われる中、それらの引継ぎをする側も、される側もよく分かりえない困難な状況にも陥りました。

今年度のPTA活動を振り返ると、四月に第一回竹林整備が行われました。ご存じの通り小松高校は周りを竹林に囲まれた珍しい環境の中での高等学校なので、通学や学校生活においてこの竹林を日頃より整備しなければなりません。年に三回ほど竹林を良くする会の方々の指導の下、PTAを始め、教職員や生徒たち、PTAのOB・OGの方々にも協力してもらいながら竹を切り、運んで細かくチップにしております。このチップ、まとめて置いておくと良い感じのカブトムシやクワガタの住みかになり、集まってきた虫たちを7月の竹林整備の際に地域の小学生に声がけして『キャッチザビートル』と名打って子どもたちに採取してもらっております。昨年も同様に行ったのですが、大人気のイベントとなり夢中になって土を掘り起こし、捕まえた子どもたちの嬉しそうな顔を見ていると世話をしてくれた高校生たちも楽しそうにしていたのが印象に残っています。

五月にはPTA総会が執り行われ新体制でのPTA役員と常任委員で、改めてPTA活動がスタート致しました。それと同時に待望のコロナの5類化となり、以前のような学校生活を取り戻すためにどんな事が出来るのか、これまでにない期待を膨らませていました。

七月になると第二回竹林整備が行われ前述した『キャッチザビートル』が行われました。もちろん竹林整備を始め、学校内のグラウンドの草削りや溝掃除も最低限の整備はしております。記録的な猛暑が続いていた中、熱中症の対策をしつつ行いましたが、何より子どもたちの夢中になって楽しんでいる姿を目にし、活動して良かったと思いました。

九月の体育大会では、ジュースの販売を行い生徒や保護者の方々の熱中症対策を担えたと思っております。また、過去三年間と違って、コロナの5類化に伴い全ての保護者に見て頂ける環境が出来た、大変良い状況になった体育大会でもありました。

十月には小松高祭があり、保健所の指導の下、焼きそば等の調理・販売が可能になりました。昨年度までは飲食の製造も販売も出来なかったので飲食以外の事をしてきましたが、ようやく小松高祭らしい活動が出来、更にはPTAの結束力も高まったように感じました。やはり皆さんの協力無くしては出来ないし、達成した時の充実感も計り知れない物があると再認識しました。

十一月には年度内最後の第三回竹林整備が行われました。これまでも同様ですがPTAのみならず地域の方やOB・OGの方々のご協力に物凄く助けて頂き、感謝しております。

十二月には研修旅行も行われ、本来参加資格がありながらも行くことが出来なかったOB・OGのPTAの方にも声を掛けさせてもらい、楽しく有意義な研修旅行になりました。

年が明け、今年度も残りわずかとなりましたが、コロナ化で途切れそうになった養正が丘の想いを再び繋ぎ、固い絆を紡いで行けたらと思っております。私たちの子どもたちの高校生活を、より充実したものになるための一端を担うためにも、今後ともPTA活動へのご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

しなやかに

教頭　久門　美和

養正が丘では、暖かな日差しに春の訪れを感じられるようになってきました。保護者の皆様にはこの一年間、本校の教育活動に対し、御理解・御協力を賜り、心より感謝申し上げます。

五月八日から、新型コロナウイルス感染症が五類感染症に移行され、新たな「日常」がスタートしました。今まで当たり前にできていたことができない三年間でしたが、これをただのマイナスの体験として終わらせてしまうのではなく、様々な困難を生徒と教職員で乗り越えた貴重な体験として捉え、決して無駄にしないよう今後の学校活動に生かしていきたいと思います。

そして、引き続き感染症対策を取りながら、二学期の「変幻自在～輝く青春　刻め心に～」のスローガンのもと行った体育大会や小松高祭、第四十回となった竹林整備などの学校行事は、ほぼ通常通りに行うことができました。様々な行事において、熱心に御参観・御参加いただき、ありがとうございました。生徒たちが笑顔で生き生きと活動している様子を、保護者の皆様に直接近くで見ていただくことができ、大変うれしく思っています。

部活動においても、男子バレーボール部の第七十六回全日本バレーボール選手権大会愛媛県代表決定戦の準優勝、吹奏楽部のマーチングコンテスト四国支部大会銀賞をはじめ多くの部活動が素晴らしい成果を上げています。同窓会館内には、「えひめ教育資料館」を整備し、本校に残る教育資料をはじめ、愛媛県内に残された教育関係資料とともに、本校生徒有志が作製した愛媛や小松の教育に関するパネルを展示し、開館日には東予歴史トリップを行い生徒が案内役を務めるなど、地域文化発信の拠点として広く公開することができました。その他にも、生徒による地域の課題解決に向けた多くの取組が行われ、これらの主体的な学びにより、チャレンジする力や考え抜く力、コミュニケーション力等、目まぐるしく変化する時代を生き抜くために必要となる力が身に付いたものと思っております。

このVUCA時代を生き抜く能力として、「レジリエンス」が必要だと言われており、「レジリエンス」とは、困難をしなやかに乗り越え回復する力を表す言葉です。私は、「しなやか」と聞くと「竹」を連想します。それは、約三十年前に、中学校の教員をしている同級生から聞いた、「私は、竹のようにしなやかな生徒を育てたい。」という言葉がとても印象に残っているからです。その同級生は、「竹は、どんなに強い風が吹いてもしなやかに曲がって決して折れない強さがあり、竹は節があるからしなることができて、またその節から成長できる。生徒にも困難に負けることなく柔軟に対応して、それをきっかけにぐんぐんと成長してほしいと思っている。」と話してくれました。同級生は、ずっと前から「レジリエンス」の必要性を理解していたのかもしれないと、小松高校に赴任し、学校の竹林を見ながら考えることがあります。本校の生徒たちにも、しなやかに困難を乗り越えながら成長してほしい、そして、将来は地域にしっかりと根を張り、地域の一員として貢献できる人材に育ってほしいと考えています。そのためには、教職員だけでなく、保護者の皆様、地域の皆様の御協力が不可欠です。

今後とも、小松高校発展のため、皆様の御協力・御支援をお願い申し上げます。

積微力行

小松高祭

今年は待ちに待った一般公開の小松高祭を開催することができました。

生徒会スローガン「変幻自在～輝く青春　刻め心に～」に見合うように感染症による制限の時に学んだことを忘れず、千篇一律ではなく、華やかさも楽しさもこれまでの小松高祭を超えるものにするべく３４０名の全校生徒で一致団結しました。

養正会・ＰＴＡバザーの出展など御協力ありがとうございました。

KOMATSU ウォークラリー

自然の中を歩くことにより、郷土の自然の良さを知るとともに、地域の人と触れ合い、協力する態度を養い、社会道徳などを身に付ける機会となりました。

また、係役員としての活動を通して、「観る、支える、知る」という多様なかかわり方があることも学びました。11月10日㈮、あいにくの雨となりましたが、ごみ拾いをしながら歩く伝統も引き継ぐことができました。

チェックポイントは石鎚神社の第二駐車場をお借りしました。小雨が降りしきる中、往復12㎞コースを全員が完歩でき、記憶に残るウォークラリー大会となりました。ＰＴＡの皆さん、給水所での御声援ありがとうございました。

体育大会

第75回体育大会が9月5日㈫に実施されました。今回は声出しの応援競演や生徒と共にリレーで奮闘する教職員の姿も見られました。総合優勝の栄冠は紫雲に輝きました。